

物心ついたときからネットが身近にある「ネット世代」。通信機器を自由自在に使いこなす今の若者は、ネット上でコミュニティを広げる一方、恋愛や友達関係といったリアル（現実）の充実を表す「リア充」を重視する傾向をもっている。本書は、一見矛盾したように見えるネット世代の感覚を、通信技術の進歩と心情の変化の2つの面から明らかにした一冊である。



**ネットですながる若者の心理**  
 「つながり進化論―ネット世代はなぜリア充を求めめるのか」  
 小川克彦（環境情報学部教授）著  
 中央公論新社／定価840円（税込）

プライベートをネットに載せる背景にはどんな心理があるのか、テレビ電話はなぜ普及しなかったのかといった切り口は、身近でありながらもユニークなものばかり。長年、通信技術の開発に携わり、若い学生たちと接してきた著者の鋭い洞察は、多くの読者の知的好奇心を刺激してくれるはずだ。



慶應義塾に関連した出版物や  
 教職員の最新著書などを中心に、  
 本に関する情報をお届けします。

（ここでご紹介している本に関するお問い合わせ等は  
 各発行所または書店にお願い致します）

## 教職員執筆の最新刊より

- 米沢富美子（大学名誉教授）著  
 『朗朗介護』 朝日新聞出版 1,575円（平成23年3月）
- 添谷芳秀（法学部教授）編著  
 『現代中国外交の六十年 変化と持続』 慶應義塾大学出版会 3,990円（平成23年3月）
- 大和田俊之（法学部准教授）著  
 『アメリカ音楽史 ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』 講談社 1,890円（平成23年4月）
- 安藤寿康（文学部教授）著  
 『遺伝マインド 遺伝子が織り成す行動と文化』 有斐閣 1,575円（平成23年4月）
- 青木健一郎（経済学部教授）著  
 『現代物理学を学びたい人へ 原子から宇宙まで』 慶應義塾大学出版会 2,940円（平成23年5月）

（編著者の職名は発行時のもの）

福澤諭吉の挑戦  
 北岡伸一

中公文庫

北岡伸一 著  
 『独立自尊―福澤諭吉の挑戦』  
 中央公論新社／定価900円（税込）

福澤先生を中心とした伝記的著作である。全15章には、中津時代から晩年まで、先生がその時代に説いた思想が、政治背景との関わりとともに綴られ、抽象的な理論に陥らない、一般の読者に明快な内容となっている。本書は2002年に刊行された単行本の文庫化で、新たに先生と伊藤博文を対比的に論じた著者の講演録を加えている。何者にも媚びず「独立自尊」を貫いた先生は、日本をどのようにしたいと考えたのか―先生の軌跡をたどりながら思想の真髄に触れられる一冊だ。

写真提供…中央公論新社

慶應義塾の一冊